



負債を考慮したリスク管理

5月に公表された、リスク管理フォーラムの「リスク管理ガイドライン」では、年金プランのリスク管理において負債側を考慮することの重要性について、冒頭でふれているが、本文での明示的な取り扱いは断念している。おそらく、多様な負債構造に対して、一般的な原則を得ることが難しかったからであろう。

しかし、一般原則の策定が難しくても、個々の年金プランで、負債を考えに入れることはできよう。資産側と負債側はまさにリスク管理の両輪であって、いかに高性能のタイヤ(リスク管理手法)をつけても、空気圧のバランスが崩れていけば、路面(環境変化)に異常反応して、車体(年金プラン)を安全に運転できなくなる。

資産側のリスクをある程度管理できる目処が果たしたら、すぐに次の段階に進まないと、資産側の管理から何の効果も得られない恐れすらある。すでに一定水準の資産管理レベルをクリアして、負債とのバランスに注力すべき段階の年金プランも多いと思われる。

《目次》

- ・年金制度：確定拠出年金法案のポイント（3）－制度設計
- ・年金法制：連合会「受託者責任ハンドブック（運用機関編）」の位置づけ
- ・年金運用：米国における債券運用の歴史